



- ・進んで学ぶ生徒(知)
- ・心豊かな生徒(徳)
- ・たくましい生徒(体)

先輩のプライドと信頼

修了式 式辞より

卒業式からたった10日しか過ぎてないのに、もう世の中では、春の主演、桜の開花の話でもちきりです。今年の入学式、始業式には、どのような季節の彩が私たちを待っているのでしょうか。

私は、どの季節も、それぞれの趣があって良いなと感じているのですが、始業式・入学式には、散り際のきれいな桜吹雪の中を皆さんが登校できれば良いなと勝手に想像しています。

話は、変わりますが先日の卒業証書授与式は、皆さんの協力もあって心温まる素敵な式になりました。卒業式では、卒業生が、この中学校生活の大変貴重な時を過ごしたことを振り返りながら、自分の頑張りを認め、心を熱くするとともに、お世話になった方々に感謝を伝えながら巣立っていきました。在校生の皆さんは、三年生を送る会から前日の準備、2年生には、当日への参加をつとめ来年度への絆をつなぎました。おかげさまで卒業式が滞りなく進んだことと大変良い式になったことへの感謝をします。ありがとうございました。

さて、今日は、令和5年度の修了式です。本日で本年度における美原中学校のすべての活動が終了し、現在のクラスは、本日で解散となります。また、明日からは、年度をまたぐ春休みに入ります。本日、修了証書をもらった皆さんの春休みが終わるとすぐに進級となり、それぞれが、新しい学年、新しいクラスになります。別れが人を成長させることは、先日の卒業式でもお話したので、1年生の皆さんは、学校だよりの式辞を読んでください。

皆さんは、この一年間、それぞれの場面で頑張り成長しています。毎日の授業は、もちろんの事、委員会活動や係活動、学校行事・部活動など多くの方が美原中学校で学び、それを通して美原中学校をより、素晴らしい学校にしようと推し進めていたのです。これこそが皆さんの貴重な学びの機会です。これからも素敵な人に育って欲しいと期待がふくらみます。

そこで、来年度のことを少しお話しします。学校は、皆さんの日常生活の大半を過ごす大切な場所です。学校は、人と人とが共通の目標を持って、一緒に頑張る場所です。そのような中では、お互いにしっかりと話し合い、協力し、共に行動して充実感を得たり、温かな気持ちを感じたりすることもあるでしょう。また時には、意味のない静いがあったり、人がいやな思いをしているのに手をさしのべられない自分に憤りを感じたりと、様々な経験の毎日を重ねていきます。今までも、そのような活動を通じて、協力したり助け合い、一緒に行動し課題を解決することで、たくさんのリーダーや、たくさんの協力する仲間が育ちました。

そこで新年度、皆さんが先輩になるにあたり2つお話しします。

まず第1に「信頼される先輩になって欲しい」ということです。

昨年の美原中の桜吹雪の様子です！！



「信頼」とは、相手を尊重し、感謝をすることで得られる関係です。したがって「信頼される先輩」とは、礼儀をわきまえ、人を尊重し、行動する姿によって後輩を導く先輩となります。「百聞は一見に如かず」の言葉通り、先輩の「良い行動」「あるべき姿」は、行動によってわかりやすく伝わります。これが美原中学校の伝統です。行動によって信頼される先輩になってください。

第2は「プライドをもった先輩」になってください。先輩としての誇りをもって欲しいということです。誘惑や他人の干渉や噂話・人の目に惑わされず自分のあるべき姿・正しい姿を維持する力です。「立場が人を育てる」という言葉もあります。今年度の3年生の校長面接では、小学校では、自分はあまり前に出るタイプではなかったのですが、変わりたくてとか、リーダーをやったからこそ、優れたフォロアーとして活躍したいとか、多く生徒の気持ちの変化について聞きました。春休み中に、「信頼される先輩」「プライドをもった先輩」になるためには、自分は、どのような人間になりたいのか、そのために、何をやりたいのか、どのようなことができるのか、自分自身に問いかけ、整理する時間をもってもらいたいと思います。そして、新学期がスタートするときには、新入生が安心して、美原中学校に入学できるよう、小学校の時とは一味違うプライドを持った上級生として、皆で準備していきたいと思います。

美原中学校の伝統である、プライドを持った上級生。行動によって示す上級生としてスタートしましょう。そして、開校50周年の記念すべき新入生を迎えましょう。

新年度にまた元気にお会いしましょう。 令和6年 3月26日 美原中学校長 吉田和生

校長見聞録

今年度の最終号になった学校だよりの校長見聞録では、今年度の最後に学校環境の改善したところについてお伝えしたい。まず、校門の色を塗り替えた、正門の白、グラウンド側東門を赤（彩度を抑さえた赤）の2種類に塗り分けた。はじめて、学校に来校いただく方に分かりやすく説明したり、覚えやすくするためだ。色は、会話の記憶の中に残りやすく、わかりやすいからだ。ユニバーサルデザインとも言うが正直なところ美原中をわかりやすい学校と理解していただきたい気持ちの方が強い。次は、赤門（グラウンド側東門）から入ってすぐのスペースを改修した。幅を広げ、車ですれちがうことが、できるようにした。ある時、日が暮れてから学校を出ようとした親子の車と前から入ってきた車（学校開放で多くの自転車も入ってきた）が道幅がせまくなったのと夜間でスペースの際が見えずらく、車と自転車をよけようとした車が脱輪した。避難所になりえる学校内でそのような不具合があってはいけないと考え、このスペース拡張とグラウンドの際に一般道路に使用されている夜間に反射する黄色のペンキのラインを引いた。最後は、体育館の改修である。照明をLEDに交換。明るくなったことと点灯、消灯の時間が極めて短くなり更に照度も調整できるようになった。生徒の発表や集会時の照明の暗転など大きな効果を上げている。更に体育館のトイレ改修である。車いすが入れられるようにスロープの設置と多目的トイレの設置が完了した。男子のトイレの小便器の間には、つい立てもいれプライバシーにも配慮した。学校がいつ避難所になるかわからない状況でもあるので、行政の協力は、不可欠であり、ありがたい。細かには、更にあるがスペースの都合で控えたい。いずれにしろ、環境においても美原中学校の生徒をはじめ関係者にとっても「本気の実顔を体験できる美原中学校」であり続けられるよう頑張りたい。

